

ワクチン 接種後 発熱時、必要なら薬服用

しつとりとした空気に

緑の香りが漂う季節になりました。新型コロナウイルスワクチン接種で世間はざわついておりますが、皆さま健康にお過ごしでしょうか？ このワクチンの「副反応」については先の号でお伝えいたしました。その対処について正しく知ってお

きましょう。

このワクチン1回目の接種で身体の免疫反応が働き、抗体が誘導されると、2回目の接種で副反応が起こりやすくなります。ワクチンの接種に伴い報告されている症状の発熱や倦怠（けんたい）感、頭痛、関節痛などがこれに当たります。これはワクチンに対する免疫反応の一つなので、数日で軽快します。

特にワクチンによる発熱や頭痛は接種して1〜2日以内に起こることが多いので、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用して、様子を見てください。服

用する解熱鎮痛剤は抗炎症作用の少ないアセトアミノフェン（カロナール）やタイレノール）の服用が推奨されていますが、腎機能や肝機能に心配がなければ他の解熱鎮痛剤



でも構いません。

副反応は全ての接種者に出るものではありませんが、副反応が起きた時は慌てず対処しましょう。ただし副反応らしき症状（高熱やせき、咽頭痛、味覚や嗅覚の消失、息切れなど）が2日間以

上にわたり長く続く場合は、かかりつけ医や接種医療機関にご相談ください。

接種後はお風呂に入ったりしても構いませんが、激しい運動などは避け、穏やかな生活を送りましょう。また、接種したからうつらないといったものではないので、せっけんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒、マスクの着用を引き続き心掛けましょう。このウイルス感染の収束を願って。

（薬剤師 西 美香）

薬話 よもやま

[67]

松阪地区薬剤師会

